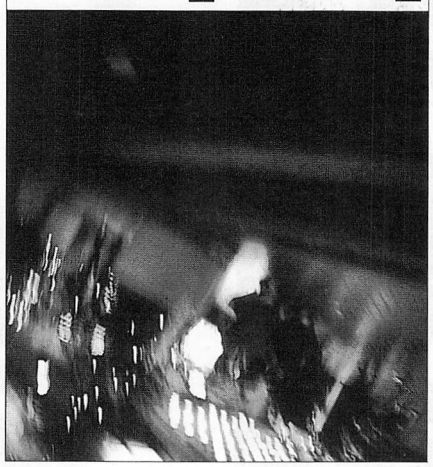
KYOTIAN DICTIONARY

京都に生息するアボリジニー達の為の、ちょっぴりシニカルでコミカルな豆知識。

[wa]



早稲田大学

ここの運動部は選手という選手が軒並み、自分たちの勝利を「試合に勝った」とはいわず「早稲田が勝った」という。自分たちが苦しい練習に耐え、試合で一生懸命にプレーして競技に勝つ喜びよりも、学校の名誉の方が優先する連中なんか、絶対に応援してやらないよ。

ワイルドフ

望月三起也のこの傑作を「今、実写映画で製作してほしい」という声をきいた。確かに作品としては素晴らしい素材だと思うが、キャスティングのことを考えると首をひねらざるをえない。なんたってジャッキー・チェンと後藤久美子のコンビで『シティーハンター』ができちゃう御時世なのだ。今は。

以和為貴

「わをもってとうとしとなす」と読む。聖徳太子が言ったとされるこの言葉のために、社交性が希薄で、面白い個性を持った子供が、どんどんそれをツブされていく。学校の先生は、いわゆる問題児から教わることなどないのだろうな。

わらける

京言葉。「笑いころげる」の意味だが、ニュアンスとしては「笑っちまうぜぇ」といった感が強い。

わたしの青い鳥

白いお帽子の可愛い少女は、立派なツボ売りのおばさんになった。

若気の至り

未成年者が巨人を応援すること。成人の場合、おとなげないという。

若大将

加山雄三主演で18本、草刈正雄主演で2本製作された映画シリーズ。加山のシリーズはもうひとつ評判が芳しくなかった。やはり加山雄三の脳天気な明るさに対して、草刈正雄では暗すぎたのだ。顔が。

ワイズミュラー

オリンピックの競泳選手であったジョニー・ワイズミュラーは、『類猿人ターザン』で一躍有名になったが、それしか仕事がなかったため気の毒な晩年だったらしい。インパクトの強烈な当り役は、かえってマイナスだという一例。

若者

①前途が可能性に満ち満ちた人々。②なにひとつ実績がないため、可能性以外に期待する点がない人々。

若花田勝

にこにこしてはいるけど弟に先を越されっぱなしでくやしいだろうなぁ、と、思っていたら大阪場所で遂に優勝した。よくやったお兄ちゃん／えらいぞお兄ちゃん／お兄ちゃんの星／お兄ちゃんのなかのお兄ちゃん／お兄ちゃん王／ゴッド・オブ・お兄ちゃん／

我、奇襲に成功せり

現在、京都市や宇治市で、和菓子チェーン店による空前の店舗展開戦略が遂行されつつある。おそらく現地採用であろう民兵を大量につぎこむ、その人海戦術の作戦コードネームは「おはぎの丹波屋」。

和歌山県

自ら広告をする県。白虎社の大須賀勇氏を使ったポスターのできばえは、行政機関が音頭をとっているとは、にわかに信じがたいほど素晴らしい。見習うべし京都府。

わざおぎ

俳優と書く。もともとは歌ったり踊ったりして神様や人々を楽しませる人のことで、まぁ現在の俳優に近いといえばいえるが、現代のわざおぎどもは、神様たるお客様を楽しませるより自分が楽しむことにご執心のようで、ドラマもバラエティーもちっとも面白くない。

ワンダバ

例えばあなたの彼女が大型犬とか、まぁ極端な場合、クマなんかに襲われてるとしねえ。そのときあなたが金属バットあたりを持ち出し、彼女の救出に向かった場合、その行為を「そりゃワンダバだわ」という。出典は『帰ってきたウルトラマン』以降のシリーズの地球防衛軍が出撃するシーンのBGM。

和製英語

有名なもののひとつに、ナイターがあるが、この言葉は便利なうえ、雰囲気も分かりやすいようで、アメリカのジャーナリストたちが現場で使いはじめたらしい。このようになんでもかんでも輸入や逆輸入するからアメリカの貿易赤字問題はなかなか解決できないのだ。

和田豊

90年の最終打席を最後に、92年の最終打席に至るまで、117打席の間、ただの1本もホームランを打っていないことで有名になった阪神の内野手。この記録の注目されるべきは、その間の打撃成績が、1044打数300安打であり、彼が決して打撃のヘタな選手ではないことと、その最後の1本、90年最終打席の一打が、ランニングホームランだったという点である。

若々しい

若々しく見える人が、単に大人気ないだけだったという場合もある。若人よ、その人の仕事ぶりもよく見たうえで遊んでもらわないと、キミがバカをみることになるゾ。

わに

①第一代天皇、神武天皇の父は、彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊（ひこなぎさたけうがやふきあえずのみこと）であり母は豊玉姫（とよたまひめ）である。この豊玉姫は海神の娘でその正体は八尋鰐（やひろわに）である。古語での鰐とは鮫のことであり、また天皇家は万世一系であるわけなので、昭和天皇のライフワーク、鮫の研究は、実にご先祖様の研究だともいえたりするわけである。②因幡の白うさぎに騙される鮫も原典には「わに」と書いてあるので、頭の悪…、心の素直なさし絵家が本当に鰐を描いた本もあった。

渡辺恒雄

ナベツネの呼び名と数々の暴言で知られる東京読売巨人軍球団社長。最近ではフリーエージェント制度の制定が議題になっている会議で、いきなりドラフト廃止を叫び、ライオンズとともに新リーグ結成をほのめかす、という愚挙に出た。なんのことはない、自分の主張が通らなければ、新リーグ結成で脅す読売球団フロントの体質は、15年前の江川騒動のときから毛の先ほども変わっていないのである。

ワールドカップ

世界選手権。いろいろな競技にワールドカップはあるが、今年の注目はサッカーである。今大会はJリーグ人気の今後を占うバロメータ。予選を突破できれば、それは爆発的なものになるだろうが、完敗を喫することになれば、せっかくの人気が単なる一過性のものに終わることが十分予想される。

ワールドシリーズ

メジャーリーグのナンバーワン決定戦。「アメリカのプロ野球のナンバーワンを決める試合が、なんでワールドシリーズなのだ。そんなのサギじゃないか」と、訴訟をおこした者がいたが、判決は「サギにあらず」モントリオールとトロントのカナダチームがあるからというのがその判決理由であった。ウソのような本当のお話である。

わかれ

会うはわかれの始めという。京辞林もあと2回でおわかれであるが、担当者にとっては、次の企画よりも「を」「ん」で毎月一ページを埋めなければならないことの方が、当面の頭痛のタネだったりする。